



リスニング特集号

【リスニング対策】

2020年度から始まる大学入学共通テストは、リーディングとリスニングの配点がそれぞれ100点で、1対1になります。リスニングは、1回読みと2回読みが混在します。音声を利用した勉強がますます必要になります。

リスニング対策として、

▶ 「英単語、フレーズを視覚だけでなく、音で覚える必要がある。

リスニングの訓練を積むべきだ」

(予備校講師のコメント:朝日新聞5月14日)

▶ 「リスニングの練習にかけ時間を増やすと同時に、まとまった量の英文を聞いて判断する力を身につけさせる授業を考えたい。」

(高校英語教諭コメント:朝日新聞5月14日)

具体的には次のことをしなければいけません。

-Contents-

・リスニング対策

・中学1年生クラス

・中学2年生クラス

・小学5年生クラス

・小学6年生クラス

・高校生クラス

リスニング向上のための必須条件とそれを満たすための対策

| 必須条件 | 対策 |
|---|---|
| <p>1. 語彙力:</p> <p>「知らない単語は聞きとれない」。目で見ても意味が分からない単語を耳で聞いてわかるはずがない。語彙力に加え、日常会話で使われる決まり文句も必須。</p> | <p>①語彙を覚えるときは音声とともに覚える。 ②意識してラジオの英会話等を聞く (テキストとともに) ③単語は1日20個ずつなど、毎日のノルマを決めて覚える。だらだら勉強しない。まずは、英語から日本語で覚える。</p> |
| <p>2. リズムやイントネーション:</p> <p>英語らしさへの慣れが必要。自分で英語独特の強弱リズムやイントネーションの勘所がつかめるようになると、他の様々な英語を聞いてもずっと効きやすくなる。音声とともに英語の勉強をしてきた学院の生徒は有利。また、音の認識も重要。lとrの区別がよく強調されるが、それよりも、音がつながったために、個々の単語が認識できなくて、内容理解へむすびつかないことのほうが多い。音声で英語を勉強していない人はすぐにはクリアできないことである。</p> | <p>①CDを聞いてその通りに真似をして音読をする。 ②CDの音に影のようによりそって言う。(shadowing) これは、ヘッドフォンをかけてするとよい。 ③発音、リズム、イントネーション、特に、英語の音のつながりの部分に印をいれながら意識して真似する。 ④dictationをすると、自分がどんな音が聞き取れないのかが分かる。</p> |





| 必須条件 | 対策 |
|--|---|
| <p>3. 集中力と「わかって」とする姿勢:</p> <p>「聞き流すだけで英語がわかるようになる」ということは「ない」。それは、単なるBGMに過ぎない。母国語ではないので、集中して聞かなければ内容把握はできない。「あきらめない」姿勢が大切。あきらめると頭が「情報処理」を止めてしまう。</p> | <p>①聞き流さない。頭でふんふんとうなずきながら聞けるよう、情報の処理をしながら聞く。</p> <p>②わからないところはスクリプトを見て確認し、再度聞く。</p> <p>③どうしてもわからないところは、スクリプトを見る前に、dictationをしてみて、意味を考えるとすることも有効。</p> <p>④予測をして聞くことも大切。例えば、may ~と聞こえたら、そのあとに、butがくるかもしれない、betweenと聞こえたら、その後2つのことがくる、など、予測をすることで、聞く作業が少し楽になる。</p> |
| <p>4. 文法構造の理解:</p> <p>「主語＋動詞」が聞きとれなければ、内容の把握はできない。副詞節がきちんと聞き取れなければ、論旨の展開も把握できない。</p> | <p>①聞きながら「主語＋動詞」の部分のみを書きとる。</p> <p>②接続詞に気を付けて聞く。</p> <p>③接続詞は論旨の展開がわかるヒントになる。</p> <p>④細かく聞こえなくても英語の常識から文法構造の把握をする。</p> |
| <p>5. 速い情報処理:</p> <p>リーディングで、読み返しや後戻りした読み方ばかりをしていると、リスニングに対応できない。聞こえてくる英語の情報を瞬時に頭の中で処理をし、意味を理解し、さらに、それを記憶に残しておかなければ、内容把握は難しい。また、7単語以上からなる文を1度聞いて瞬時に意味がとれなければ、まとまった文の内容把握は難しい。</p> | <p>①英文を前から後ろへ声に出して訳す練習をする。</p> <p>②後戻りしないために意味の区切りで斜線をいれながら読む(スラッシュリーディング)。</p> <p>③一度読み終わったら、内容を思い出す。</p> <p>④メモをとりながら聞く練習も役立つ。但し、メモは、聞こえたものを書きとめること。</p> <p>⑤文を長めに切って、それをリピートもしくは内容を再生する。頭に残す英語の分量を増やす訓練になる。</p> |
| <p>6. 背景知識:</p> <p>「豊富な知識」は、音やスピードについていけないときの補完をしてくれる。英語は聞き取れても、背景知識がなければ、内容を把握することはむずかしい</p> | <p>①日頃から、新聞、雑誌、書物等、多量に読んで、情報を収集する。読むものは、日本語でもよい。</p> <p>②世の中で起こっていることに関心をもつ。好奇心がなければ、背景知識は増えない。リスニングでも不利になる。</p> |





| 必須条件 | 対策 |
|---|--|
| <p>7. 異文化知識:</p> <p>日本では大臣のことを「Minister」というが、米国では大臣を長官といい、英語で「Secretary」と言う。ファーストフード店でだされるフライドポテト、英国ではchips、米国ではfriesと言う。そういう異文化的知識も必要となる。また、風土、習慣、ジェスチャー、思考、価値観の違い等を把握していると有利</p> | <p>①異文化に関する本を読んだり、聞いたりする。 ②外国人の先生によるクラスを利用して、日本にいないだけではわからない情報を得る。それは、語学、文化の両面から。</p> |
| <p>8. 語彙の意味の幅を広げる:</p> <p>一つの単語に一つの意味で語彙を覚えていると、内容理解に支障をきたす。例えば、compromiseは「妥協する」で覚えているのが普通だが、「compromise free speech」となると「言論の自由を危うくする」という意味になる。</p> | <p>①目的語に来る名詞により、動詞の意味が変わるので、連語で語彙を覚える。 ②理想的なのは、読んだり聞いたりした教材から自分で連語リストを作ること。その連語を見ると、どんな状況(コンテキスト)で使われていたのかがわかる。</p> |
| <p>9. 英語を聞くときに平常心で聞く:</p> <p>固有名詞が出てきてもそれに惑わされることなく、内容を把握できる。 実は、これが一番むずかしい。</p> | <p>①人の名前や組織の名前は、かならず、その後に、どんな人である、どんなことをしている組織であると説明があるので、むしろそこに気を付け、名前や組織は適当にカタカナでメモをとるくらいにする。 ②「主語+動詞」を確実に把握する。 ③集中力を保ちつつ、気持ちは落ち着けること。</p> |

* 英語を話すためには、相手が何を言っているのかがわからないと、会話は続きません。「DiscussionやDebate ができる」ことが日本の英語教育では強調されていますが、「聞けない」ことには、議論は不可能なのです。以上に書かれていることを**毎日継続することが「聞けるようになる」唯一の道**なのです。配布しているCD教材を活用したり、または、市販の音声教材を用い、以上のことを実行して、リスニング力をアップしてください。





【中1新テキスト: English for Global Communication – Intermediate】



中1のテキストを新しく作りました。タイトルをEnglish for Global Communication して、登場人物にAIロボット加え、場所を大分市の府内町、登場人物の一人である平賀博士の研究室は、アクアパークのおもしろい形をしたトイレにつながっているという設定にし、講師自ら、写真撮影に行き、テキストに載せました。また、録音は、学院で教えてくれている外国人講師が2日かけて行いました。AIロボットのアレックスは、学院の卒業生である村田野乃さんに頼みました。臨場感とスピード、そして、イギリス英語、アメリカ英語、カナダ英語、と様々な英語に触れることもできるテキストに仕上がりました。また、挿し絵ですが、大分県立芸術短期大学のイラストレーション部の2年生が中心となり、描いてくれました。登場人物の性格や得意なことなどをお話しただけで、これほどまでに素敵に書いてくださって生徒はテキストの内容をより身近に感じることができます。文法配列は、これまでのEnglish for Beginners 1とほぼ同じですが、より自然な英語になっています。分量は相変わらず多いですが、1年間、くじけることなくがんばって取り組んでもらいたいと思います。



テキスト録音中の外国人講師たち 2019 3月





【中学1年生：英語の勉強はスポーツと同じです！ 毎日やらなければ身に付きません。】

中学1年生になり、英語の勉強が本格的に始まりました。学院の勉強内容と、学校のテキストの内容がかけ離れているために、そろそろ、学院の勉強について疑問を持始めたり、やる気がなくなってきた生徒さんが見え始めました。テキストの大量の英文に圧倒されて、毎日の練習を怠っている生徒さんもいます。

成果が見えにくいものを継続して努力することは大変難しいことです。継続するには、かなりの強い気持ちや目標が必要です。英語は将来必要であるということはよくわかっている、使えるようになるには時間がかかり、日常生活でも差し迫ってその必要性を感じる事が無いので、「なぜ英語を勉強しなければいけないの？」と、しなければいけない理由を探しながら、実は逃げ腰になってしまうのが英語の学習の現状です。下記は、ある生徒とのやり取りです。

講師： あなたは将来何になりたいの？

生徒： 医者です。

講師： 医者の世界では、英語を使うって知ってた？

生徒： はい。

講師： 中1の今は、あなたが医者になって英語を使う必要が出た時に、きちんとした英語が使えるための基礎を勉強しています。そのことを頭において、家での勉強をしっかりしてくださいね。

上記の会話は、職業の部分をお他の職業に置き換えても成り立ちます。中1の内容がすべての英語の基礎になっています。この1年は、学年が上がってから学ぶ構文の基礎となる文法事項を、瞬時に言えたり、書けたりできるようになるまで徹底した練習をします。そのためにも、家庭での学習を早く習慣化し、スポーツと同じような訓練を課してがんばってくれることを願っています。



【中2の月曜日・金曜日・日曜日のクラスは毎回復習テストをしています。】

中2になり、習熟度別クラスとなりました。中1の時にEnglish for Beginners Iの語彙と文章を一生懸命に覚えて、英語の基礎を作り、今、中2になり、中3レベルの勉強をしています。覚えるのみならず、教えられた文法事項を一つ一つ頭の中で理解をしていくことが求められています。毎週授業に来るたびに、新しい文法事項を導入されて、頭の中が混乱しないよう、復習を確実にしてもらいたいの、毎週30点満点の復習テストをしています。授業で使用した配布資料を見て復習すれば、そのテストはたいへん易いのですが、復習をしていないと、忘れてわけがわからなくなります。配布資料には、毎回課題として、問題がついています。口頭ですばやく言う練習を中心に、頭と口でしっかりと身につけてもらいたいと準備したオリジナルの例文ばかりです。中1のクラス分けで、もうそこに固定したのではありません。すでに、日曜日から金曜日へ上がった人もいます。English for Beginners IIの会話を覚えたり、3級や準2級レベルの単語も覚えたりと、大変ですが、この1年の努力がその後の英語の勉強を左右します。言われたことを確実にやり、弱い気持ちを切り替えて、がんばりましょう。





【小学校5年生:90分の授業でも集中して取り組んでいます！】

昨年度より、小学校5年生も学院独自のテキストを作成し、使用しています。2～3名の外国人講師が教室に入り、彼らに励まされて、会話やプレゼンをするなどの活動を毎週行っています。現在は、家族の説明をする練習をしています。母方の祖母や、父方の祖父など、むずかしい表現もあります。ただ楽しい英語のレッスンということではなく、家で真剣に練習してきた人がその成果を披露し、参加をしている外国人講師による良い評価を受けて、「やってきてよかった。」と思えるような授業を進めています。7月中旬に授業参観を予定しております。その時は、この1学期の内容の総復習として、英語によるパフォーマンスを見てもらいます。楽しみにしてください。



【本格的英語の勉強に取り組む小学校6年生】

6年生のクラスでは、中1とほぼ同じ授業を行っています。最初の5分は、単語テストや文章テスト(10点満点)をし、どれだけ家で書く練習をしているのかをチェックします。最近では、3単現のsやhasが正しく書けるかどうかのテストをしました。前半の授業では、その週勉強してくる会話や物語の文法の導入と練習をします。きちんと板書を写し、家で復習もできるようにしています。机について受ける静かな授業ですが、みな、集中している姿は、大変頼もしいです。現在、6年生最初のストーリー、The Naughty Monkeyを読んでいます。1度読んで、すぐに書いてある内容を理解し、大きい声で音読ができます。後半の授業では、ストーリーの登場人物になりきって、セリフを言ったり、プレゼン風に発表したりしています。高度な活動ですが、6年生は積極的に取り組んでいます。ある生徒のペットに関するオリジナルの説明文です。

Fish are good pets.
They are clean.
They are delicious.



ユニークな説明文ですね。また、生徒は、自分で文を作る時に外国人講師へ質問をします。ある生徒は、日本語で「モフモフって英語で何ですか？」と講師に聞きました。「モフモフ」は講師がわかりません。日本語の講師に聞き、「fluffy」と答えます。あとで外国人講師が、新しい日本語を学んだと喜んでいました。こうしたやりとりは、双方にとり、有益です。また、そのやりとりを講師たちは大変楽しみに授業に参加をしてくれています。

6年生には、英語を使おうとする積極的な姿勢を今後も持続してもらいたいと思います。今後は、会話のテキストに加え、2冊目のストーリーThe Princess and the Peaを読んでいます。今度は、外国人講師による英語の質疑応答が中心になります。瞬時に聞かれたことを理解し、瞬時に答える訓練です。がんばりましょう。





【高2対象の上級クラスでは様々な社会事象を英語で討議しています。】

大分県を訪れる観光客の増加や、ラグビーW杯開催に伴い、学院外で仕事をする機会が増えていますが、その仕事でお会いする日本人の方からよく、「どうやったら英語がうまくなりますか。」という質問を受けます。リストをあげるときりがありませんが、「基礎をしっかりと学び、短時間で日本語を英語にする訓練などをするといいですよ。」と答えるようにしています。大人の方は、知識や経験が豊富で、社会のしくみもよくわかっているので、あとは、それを英語で伝える訓練をすればいいのですが、中学生や高校生が英語で討議をしようと思えば、英語に加えて背景知識を多くもっていなければ、討議は深まりません。

学院の高校2年生ともなると、日常のことについて英語で話すことは苦も無くできます。おそらく、海外へ出て必要なやりとりはできることでしょう。しかし、社会事象について討議をするとなると話は違います。それで、上級クラスでは、まず、The Japan Timesの記事を中心に様々なメディアの記事を用いて英語で情報を得ます。そこで、英語と知識をある程度頭にインプットしてから、複数の外国人講師とのやりとりへと活動を進めます。トピックに関連した新聞の投稿記事を読み、講師に英語で内容を伝えたり、内容に関連した4コマ漫画を説明したり、様々な意見について賛成か反対の意見を言ったり、あるいは、グループの意見を大型付箋に書き、前でそれを発表するなど、様々な活動を90分の中で行います。運動部で忙しい生徒も、授業に遅れながらも躊躇することなく、すぐ活動に参加をし、英語でがんばっている姿には頭が下がります。高2という忙しい時期に、こうして学院での勉強を続けている高校生が参加するだけの価値があるよう、毎回、インプットからアウトプットの流れを意識したレッスンプランを準備しています。また、最後に自分の意見を英語でまとめる作業もあります。英語の面のみならず、ロジックや構成にも注意をして米国人講師のクリスが添削をしています。高校生の皆さんは、時には言いたいことがうまく言えなかったり、外国人講師の話す英語がわからなかったり、また、逆に、外国人講師は、高校生の言いたいことがよくわからなかったりと、いう場面もありますが、このようなやり取りを通じて、一定以上の英語の力を持った学習者はさらに英語が上達していくのです。1年後の姿を楽しみにしています。



上級1クラス

